

# 山行報告書

京都田辺山友会

報告者

山口

山名	赤兎山	山行名	例会
ルート	新田辺➡福井北 IC➡小原登山口—小原峠—赤兎山頂—赤池—(往復)登山口➡新田辺		
山行日	6月15日(日)	天候	晴
参加者	CL 山口 SL 園上 男子 15名 秋月 小川 金本 佐々木 佐々木康 中島 中廣 広瀬 樋口 西川 宮野 村上 守口 女子 11名 上田 大林 河野 玉井 徳田 長野 西上 浜北 藤富 山田 吉野 合計 26名		

 <p>ルート概略図 省略</p>	コースタイム					
	地名		時:分			
	新田辺	発	6:20	赤兎山	着	13:40
	小原登山口 P	着	10:30	小原峠	着	14:45
	〃	発	10:45	登山口 P	着	16:00
	小原峠	着	11:30			
	大舟分岐	着	12:05	新田辺	着	19:50
	〃	発	12:10			
	赤兎山頂上	着	12:30			
	〃	発	12:40			
赤池 (昼食)	着	13:00				
	発	13:30				

## 山行報告

紅葉のシーズンに苜込池でテント泊をして三の峰に登った折り眼前に赤兎山を見て、是非登って見たいと思って居ましたが、機会がなく、今年の山行に計画しました。

梅雨時期でお天気が心配でしたが、当日は梅雨の晴れ間で素晴らしい天気となり最高の山行と成りました。

福井方面はバス代も高いですが参加者が多くて26名参加で満席となり助かりました。

新田辺 6時20分出発して福井北 ICには9時到着し、R416・R157を走りやっとな小原の標識が出て、暫らく走ると林道のゲートに着きました。森林組合が管理している林道で通行料を一人300円払いました。

登山口まで10キロも道は綺麗に舗装されて居ますが、マイクロバスがぎりぎり路肩に柵もなく運転手さんも大変です。登山口には予定より30分遅れの10時30分に着きました。

赤兎山は初心者も登れるし展望の良い山で人気があり、登山者も多くて、参加者が26人で行動時間も多く見て居ましたが、下山者が多くて待ち時間などで予定より随分時間が掛かりました。

頂上には12時30分に着き記念写真を撮り、昼食場所の赤池まで歩きました。

頂上から下るとは高層湿原が広がり池塘は苗場山や平ガ岳で見ましたが、関西では珍しい。

苗場山に登った時池塘の中の植物がホタルイだと佐々木さんに教えて貰ったのを思い出した。

まるで田植えが終わった田んぼの様でしたが、ここは赤池ともう一つ小さな池がありモリアオガエルの卵の白いあわが池に浮かんでいます。もう直ぐオタマジャクシになるのだろう。

ここは360度の展望で、残雪の白山や別山、三の峰や荒島岳、経ガ岳などが目に飛び込んでくる。

下山道は滑り易くて人数も多く予定より時間が掛りましたが無事に下山しました。

道中は交通渋滞も無く20時に新田辺に帰着しました。

SLの園上さん班長の秋月さん広瀬さんご参加の皆さんご協力有り難う御座いました。



ヒヤリハット ありません

あかうさぎやま

赤兎山登頂記 1628.7m

6月15日(日) 晴れ

佐々木康治

福井と石川の県境にある赤兎山は、丸みを帯びた優しい山容が名前の由来という。

今が一番日が長い時期、5時に起きたがもう明るい。総勢27名、京田辺を6時30分に出発し、リーダーの山口さんから「梅雨の谷間の好天気、参加者の日頃の精進が良かったお蔭」と感謝の言葉、今日の参加者は人間が出来た人ばかりなのだ。名神、北陸と北上し福井北ICを出て、ほどなく林道入口、ここは<sup>おほら</sup>小原地区私有地、一人当たり300円の入山料の徴収、富士山が1,000円、倶留尊が500円などと入山料を必要とするところがあるが、もっと鷹揚に「いつでも自由に登山を楽しんでください」と太っ腹なところを見せてほしいものだ。ゲートからは幅の狭い山中の舗装道路、中谷運転手の腕の見せ所、彼のプロの<sup>わざ</sup>業に命を預けて約20分、無事赤兎の登山口駐車場に到着、赤兎は人気の山、駐車場はほぼ満杯、京田辺からは4時間弱かかった。

27名となるとかなりの列、先頭は山口さん、程よいペースメーカー、鮮やかな緑のブナ林を木陰にしてゆっくりと足を進める。山ギャルが増え、服装がカラフルでファッションナブル、それにつられて山オバも負けるものかと経済力にモノをいわせてなかなかの力の入れよう、自然の花に優るとも劣らぬ人工の華が咲いている。

山頂近くになると残雪の原が二つ、三つ、福井が豪雪地帯なのがよくわかる。1628.7mの頂上にはちょうど2時間の12:30に到達、白山を背景に記念写真、もう少し足を伸ばして、白山の絶景の見える赤池周辺の広い台地で昼食、白山(2702m)は大きい、雪がかなり残っていて、霊峰の英姿を眺めながらの味噌汁が絶品、赤兎の人気の秘密の一つは赤池付近からの眺望なのだ。

余裕の下山、途中で列が止まるのは、花の名前も心もわかる気の優しい女性たちが、道すがら探し求めている花を大発見して大喜びしているからだ。イワカガミ、タニウツギ、タムシバ、ヨーラクツツジ、ニッコウキスゲ、コバイケイソウ、エンレイソウなどとその都度、解説が入るのでいい勉強になる。最後尾では12kgのバッグを軽々とかついでいる広瀬さん、そして一日3万歩を日課としている園上さんの二人が賑やかに喋りしながら、みんなの追い立て役をかつている。

下りも上りと同じ2時間、マイクロバスに戻ると、山口さんが用意してくれていたビールで喉を潤す。急ぎょ不参加の津田さんのキャンセル料がビールに変身、みんなに笑顔をもたらす。津田さんに感謝。飲み足りない人は勝山市内のローソンでよく冷えたビールでもう一度、二度と喉を喜ばす。京田辺までは約4時間、西上素子さんと金本さんとの漫談を聞きながら、無事帰着、最後は新田辺駅前の王将で更にビールビン、紹興酒を並べ、山談義、集団的自衛権、定年後の夫婦の力関係など、多岐にわたる懸案に討議を重ねて楽しい一日のフィナーレとする。



両白山地の赤兎山(1626m)には、中部の山では希少な高層湿原が存在するとのことで参加した。山地高層湿原のことは、最近特に興味があり、過去に登った30箇所の山々で観賞したことを回顧したりしているが、まだまだ全国には数多くの高層湿原があるので、出来る限りそれらを訪ねてみたいと思っていた。赤兎山の湿原(赤池)は規模としては決して大きくはないだろうが、生育する植物や、泥炭の状態を観たいと思った。

両白山地の山体の基盤は、主峰白山をはじめとして、手取層群といわれる堆積岩(泥岩、砂岩)である。文献によると1億4000万年ころ、広大な湖底、福井・岐阜・石川・富山の4県に渡るほどの湖が造山活動で2000mほど隆起、そののち火山が噴出して、基盤の上を火山岩が覆って形成されていると云われている。赤兎山の山体は安山岩であることから、古代は大長山(1671m)と共に火山活動があったに違いない。赤池はそんな火山のくぼみに土砂が堆積し、沼地化し、水生植物が完全に分解されずに堆積し、低層湿原から高層湿原になったものと思われる。そしてやがて時を経て湿原の一生を終える運命であろう。

小原登山口を出発する。ブナ林の緑が美しい。人気の山らしく大勢の登山者と離合する。山麓の木本、草本植物をかぞえながら、(サンカヨウ、エンレイソウ、ゴゼンタチバナ、マイズルソウ、ユキザサ、チゴユリ、イワナシ、イワカガミ、ノリウツキ、シオデ、イワハゼなど)小原峠に着いた。

ブナ林の緑のカーテン越しに信仰の山、白山が残雪を纏い、なだらかな美しい容姿で聳えているのが望まれる。霊山白山は越前麻生津(浅水)の人、泰澄大師によって800年ころ開山されたという。

白山信仰の道は《禅定道》と言って登り口を馬場という。越前では平泉寺・(現白山神社)から始まる。832年の事で、加賀は白山本宮、美濃は長滝寺で、これを3馬場(広い道路という意味)という。白山崇拜は、大和政権以前から越の人々に崇拜されていたと思う。小原峠は六宿目の伏拝場所として知られている。そうしてみると確かにここはそんな霊気のある場所なのかも知れない。左の道、大長山(1671m)も泰澄大師の開山となっている。《越の大徳》と言われた泰澄は、越前の多くの山岳を開いたといわれている。泰澄は役ノ行者と同じ古代の山岳宗教家(修験者)であったのかも知れない。

赤兎山の道はここから急登となり、道は残雪の解け水で泥土化して滑りやすい。やがて山頂に到着、360度の展望が素晴らしい。集合写真を撮り、赤兎避難小屋、赤池を目指す。山頂からの植生は矮小なササ類で見晴らしがよい。ニッコウキスゲ、ササユリ、ウラジロヨウラク、オトギリソウ、などがまだ開花せずに陽光を求めている。木道があり赤池を観る。左右に湿原があり、右は笹原を経てミヤマホタルイが、田植えのあとの水田の様相を呈している。左は中央に円形に盛り上がった浮島があり、ミスゴケやイワイチョウが白い花をつけている。水深は浅く、かなりの年代を生きた湿原である。水辺の風景には心癒される。湿原の持つ《美》は自然の中で特別な価値を有しているように思う。湿原の大小を問わずその存在に感激した。百名山の苗場山や尾瀬ヶ原の高層湿原を回顧しながら、諸事情で最近山から遠ざかっていた私の気持ちを、再び山へ帰れと、初夏の風と共に、そっとあと押してくれた赤兎山であった。《この道より 我を生かす道なし この道を歩く》武者小路実篤の言葉を実感した山でもあった。赤兎平で昼食をとり、同じ道を帰った。小原登山口の小原集落は平家落人の村として知られているが、今は廃墟となっている。バスから見える廃屋は、谷底から高い石垣を積みあげ、山腹に張り付いていた。一つの時代が消えた集落の光景は寂しいと思った。例会担当の皆さんありがとうございました。

雲臥して 蒼き水面に風はしり さざ波ともに ゆれるホタルイ ひでを